

日清紡ホールディングス株式会社
「2022年12月期第2四半期決算説明会」 質疑応答要旨

2022年8月10日に開催した機関投資家向け決算説明会における主な質疑応答をカテゴリー別にまとめました。

マイクロデバイス事業について

- | | | |
|----|--|---|
| Q1 | マイクロデバイス事業について、車載用電源関連部品が好調とあるが、具体的にはどのようなものか。電源ICというのはアナログICか。 | A 特にEV化に向けての部品が非常に好調で、我々も数多くの製品を開発しているので、今後も好調が続くものと考えている。アナログICのカテゴリーの中に電源制御系のICがあり、簡単に電源ICと言っているが、そうしたのもアナログ製品の代表製品と位置付けている。 |
| Q2 | マイクロデバイス事業について、ディー・クルー・テクノロジーズが今年グループ会社にジョインしたが、期待している点などは。 | A 信号処理系の技術をこれから強化していく上で、我々が保有している得意のアナログ技術に加えて、新たにデジタル技術も必要になる。そうしたデジタル技術やプロセッサ技術の強化のために、ディー・クルー・テクノロジーズとの協業の検討も進めていく。 |
| Q3 | マイクロデバイス企業としてグローバルで戦っていかなくてはならない中で、開発体制の強化はもちろんとして、中長期で見た場合、どのような生産体制を考えているのか。 | A 当社は前工程と後工程の両方の生産ラインを持っているが、内製化のキャパシティは限界がある。内製では他社にはない強みのある技術を開発、量産していくことに注力し、外でお願いできるものについては、積極的にFoundryあるいはOSAT(Outsourced Semiconductor Assembly and Test)を活用していく。2025年の1,000億円を通過点としてさらに成長戦略を描いており、そうしたFoundryやOSATとの協業あるいは委託のボリュームも増えていくので戦略的なパートナー作りも進めていく。 |

ブレーキ事業について

- | | | |
|----|---|---|
| Q4 | ブレーキ事業について、世界中で部材、燃料が上がっている中で、TMDが赤字になっており、価格転嫁のスピードが遅いように感じるが。 | A 原材料の高騰は、市場や地域によってでこぼこ感がある。特にヨーロッパでの高騰が顕著で、TMDではアフターマーケット向け、新車組付け用の両方で価格転嫁を数回行ってきた。スピード感が遅いとは考えていないが、利益面では価格転嫁の効果がまだ現れておらず、その効果は今年後半に現れることになっている。売上としては前年比でも大幅増収で、価格転嫁の影響が現れている。 |
|----|---|---|

その他

- | | | |
|----|--|---|
| Q5 | 燃料電池セパレータの話があったが、100億円の投資では終わらず、追加投資などもあるのか。生産能力の拡大については、どういうイメージを持ったらいいか。投資回収の時間軸は。 | A ご指摘のとおりで、これが全てではない。100億円の投資で、2024年中に建屋が完成し、その一部のスペースに機械を入れる。これによって2020年で200万枚強の生産能力が600万枚くらいにはなる。これは定置用がメインで、需要が旺盛なことさらなる追加投資も検討している。車載向けの立ち上がりは2030年以降になるとお客様から聞いているので、それが本格化してくるとさらなる工場を考えなくてはならない。投資回収については、既に受注が入っているので、計画通りいけば5-7年で回収可能、黒字化はすぐできると考えている。 |
| Q6 | カルボジライトについて、現在の状況と少し長めの時間軸で見た場合のポテンシャルは。 | A 中国ロックダウンの影響等で若干受注減はあったものの、増収増益をキープできている。市場、用途の拡大は着実に増えているので、5年くらいの時間軸で見たい。 |